

第9次豊田市総合計画への各種意見・提案

1 「(仮) ミライ構想のめざす姿」について

項目：「つながり」を通じ、多様な価値や可能性を創出するまち

意見・提案	理由・背景
1. 地域の人達とつながる楽しめるまちづくりを推進してほしい。	暮らし方や考え方が多様化する中で近所付き合いが希薄になっており、全世代で行事に参加する人と参加しない人が分かれている。 そのため、近所付き合いと日頃の協力がし合えるつながるまちづくりが基本と思うため。
2. 人口減少していかない、魅力的なまちにしてほしい。	豊田市は県外・市外からの転入者が多いが、若者に定住してもらうためには、住宅環境、交通アクセス、買い物、出産、遊園地など他に無い魅力的なまちづくり、安心安全と利便性の相乗効果が必要と考えるため。
3. 高齢者が元気で活躍できる居場所づくりを推進してほしい。	今でも参加する意識があれば機会はあるが、移動手段や、行事の内容を知らないで、外出せずに自宅にいる人は多い。 定年退職後もまだまだ仕事を頑張っていく気力は十分にあると思う。 例) 機械いじりの好きな人は、おもちゃの修理をするお医者さんみたいなボランティア活動 洋裁の得意な人は繕い等々 空き家、店舗などを自由に遠慮なく活動のできる居場所として利用することで自治区と高齢者クラブほか協力団体の連携した活動が、高齢者の活躍できる居場所づくりになると思うため。 また、今保育士不足が社会問題になっている。それを補うために、元保育士を補佐として採用すれば、保育士不足を補うとともにベテランとして保育士の相談役として働くことで生きがいが出てくるのではと思うため。
4. 高齢者から若者に文化・技術・伝統の継承するためにつながり強く意識してほしい。	現在の自治区、自治区内の各種団体は高齢者が活動の主体であり、若者や小中学生など子どもの参加が少ないと感じる。そのため若者の参加を積極的に図ると良いと思うため。

項目：「チェンジ(変化)」と「チャレンジ(挑戦)」を繰り返し、しなやかに変化し続け、成長するまち

意見・提案	理由・背景
5. 近い将来に必要なまちづくりを柔軟に対応できるミライにして欲しい。	若者が定住出来るまちには、「魅力のある仕事」、「家族、高齢者も楽しめる魅力のある場、イベント」が必要と思うため。

2 「(仮) ミライ構想のまちづくりの基本的な考え方」について

項目：発想の転換

意見・提案	理由・背景
6. 発想の転換で「あるものを生かす」について、それに向かって「あるもの」の現状把握を、一早く進めるべきだと思う。	愛知県緑化センターは、環境は整っているのに、イベント時を除いて入場者数が非常に少ないと感じる。本館内部もさびれた感がある。そこで、猿投グリーンロードと緑化センターの間に外部からも入場可能な「道の駅」を設けて地場の食材販売や子どもの遊具等を設置するとまちの活性化に繋がると思う。 また、公共インフラの維持管理の面では、歩道に草が生い茂り、植栽の根により路面にできたヒビ割れ等で通行に支障をきたす状態のところもあるため、まずは「あるもの」の現状把握と改善を行うことが必要と思うため。
7. 広い豊田の地域特性(都市部と山間部の交流)を生かしたまちづくりを推進してほしい。	豊田市民が豊田の地域を知らないケースが多いと思う。山間地のイベントに都市から参加しやすくしたり、都市のイベントに山間地の人に興味を持つ様にすることが必要と感じる。 市民が自分の住んでいる町をよく知る情報発信施策が足りないと感じるため。
8. 若い人も安心して安全に住める、子育てがしたくなるまちづくりを推進してほしい。	「男性の家事・育児力」ランキングで愛知県は全国47都道府県中45位と低迷している。 「イクメン力」を上げる為にも、パパ達が集まり易くて育児のし易い環境、例えば子どもを気軽に遊ばせる、また子ども同士が気軽に利用できる都市型の小さな公園の施設が必要である。

3 「都市構造」について

項目：都市構造の実現に向けた方針

意見・提案	理由・背景
9. おいでんバス、愛知環状鉄道、名鉄等公共交通機関を高齢者に年間1,000円から最大5,000円ぐらいで利用できるように検討して欲しい。	高齢者の社会参加促進のため。
10. まちをグローバルにアピールしてほしい。～国内から世界へ～	矢作川をはじめとする豊かな山河と「塩の道」など歴史があるにもかかわらず国内外には「車のまち」としか認識されていないのは情報発信が足りないと感じる。自動車企業の城下町と言われて久しい豊田市だが、市として豊田市の魅力や企業の技術のPR（インスタグラムと人を活用）を積極的に行う必要があるため。
11. 交通インフラの整備をしてほしい。	井郷地区を含めた北部地区には南北の幹線道路をつなぐ横（東西）の幹線道路整備が必要と考えるため。
12. 車中心の社会から車と鉄道・バスが補充しあうまちにしてほしい。	自分で運転ができなくなる高齢者が増えるので、おいでんバスやタクシーの利用やライドシェアの活用等がしやすいまちづくりが必要だと思うため。